

## ヨハネスバーグでジョギング

平成25年5月

和田 宏

ヨハネスは南アフリカの大都会である、ケープタウンや喜望峰と共に耳慣れた地名ですね。

約一カ月出張して毎朝10km走ったのは30年前でネルソンマンデラさんが大統領になる前のことです、ヨハネスは標高1600mの坂の町、何れの方角へ走っても坂道で呼吸を整えながらのジョギングです、ホテルはヨハネスバーグ駅の東1kmでしたからダウンタウンの見物に適していました、朝のジョガーは珍しくありませんが中年以上の男にはこちらが「Good morning」と言っても無視された、若い人からはサムアップか言葉が返ってきます、こう言う体験はジョギングならでのことで、ネクタイ姿では出来ないかもしれません。信号機の交差点で人は自己責任で走れば赤信号でもお咎めはなし、たまに試みましたが車は減速しないので安全とは言えません。町並みは綺麗ですが特定の区画ではところどころ舗道や壁に黄色い隈どりとトイレ臭があり住んでいる人のお行儀の違いが分かる、人種偏見に理由を与える光景である。

海外出張時もシューズを手放さなかったことは前の稿で紹介しましたが、実は、ヨハネスが初めて走った外国の町です、人並みの体力と心の安定を求めてのジョギングです。

仕事の途中で町はずれに廃土の丘を見かけた、全体を覆う草はすすきに良く似ている、話題にしてみると長めの説明が返ってきた、1970年代この町は酸性微粉が飛散して住民はぜんそく等の疾患で苦しめられていました、当地の金は固い鉱石を砕いて更にミルで微粉にし酸で処理して加熱精錬するので酸性の廃土が大量に発生する、飛散を防ぐために植物を植えても枯れてしまう、そこで大学や研究所で調査して選択されたのが日本のすすきで、なんとか問題は沈静したそうです。

ついでに金鉱山について、主要な産業の一つであるから新聞の経済面に毎日取り上げられるのは当然として、金鉱見学が、サファリーツアーなどと共に、盛んである、

週末に金鉱ツアーに参加してみた、オリエンテーションは中年の白人女性が行った、カラハリ砂漠へ求人に出かけると結婚資金を目的に元気な若者が集まる、所が問題の一つはコミュニケーションで、共通言語が無い、そこで坑内で最低限必要な「危ない」「水」等のアフリカーナ語を覚えてから仕事に就く、

エレベーターで750m降りて古い採掘現場を見学する、当時は地下2500mで採掘していたが21世紀には鉱脈の底4000mに達する、そうになると

地熱を抑え酸素を供給するために強大な送風機と電力がなければならない。南アはそれが出来る、と自信を示していた。

次に滞在したダーバンはインド洋に面した美しい町でホテルの周辺は平地で海に面した広い公園もあってジョギングコースは選びやすい、また港湾施設が整っている、近隣諸国の大型貨物はここで荷揚げする、例え南アの政権には反対でも背に腹は代えられないのである、

ジョギング中に大型クレーンの直ぐ下まで行ったが門番は椅子に腰かけて見ているだけ、治安は保たれていた。

海浜公園もコースに選んだ、海水浴客も多いに違いない、しかしサメがスイマーを襲うことがある、行政はサメの駆除を特定事業者に委託して安全な水域を提供しようとしている、サメは泳いで流水から酸素を摂るから網で拘束するだけで死んでしまう、駆除員は捕獲したり殺したりするのではなく死体を回収するのが仕事だが波が高いから危険な作業には違いない、

サメ科学館の見学は解体室で盛り上がる、見学者には冷蔵保存されたものを「今朝とった巨大な獲物」と大声で説明しながら解剖して見せる「先月は人の腕が出てきたが今日は何が出るか」声をひそめて胃袋を切り開く。

南アでも「Shell 道路地図」は充実している、興味を引くのは国内に点々と（孤立して）存在する外国である、また自由州という地域は国境線、州境線とも異なる線で区切られ移動の手続きが異なるらしい、複雑な国家であることは理解できる、また数多くの農業用ダムがある、資本の蓄積に果たした役割は大きいに違いない、ヨーロッパからの移住者に「この国は俺の祖先が作った」と云わしめる理由の一つであろう、

広大なダイヤモンド保護区は驚きなしには語れない、西海岸に東西約100km南北約600kmが区切られている、本当にこんなに広い地域を立ち入り禁止に出来るのか信じ難い、代理店のオーナーの話、「もし保護区が崩壊したら指輪のダイヤモンドは1ランド（約10円）は無理としても2ランド（20円）にはなるだろう」と解説して片目をつぶった。

筆者はごく短時間、事務所で黒人女性と二人きりになった、すかさず今の政治に就いて意見を求めると、用意されていたかのように返ってきた回答は「We are exhausted to wait.」（我々は待ちくたびれた）でした、穏やかな顔とは不釣り合いに目が鋭かったのを覚えています。

1993年新しい南アフリカ共和国が誕生したが、現在は、治安が非常に悪いらしい、理由はともかく、決して前述の女性が待ち望んでいた姿ではない、しかし現状は多民族国家の難しさが解決されていないように思える。インドの22公用語が示す多民族融合の知恵はこの国にも必要だと思う。

以上